

複式学級における国語科授業の改善に関する研究  
—説明的文章教材の指導法を中心に—

上谷順三郎

A Study of Japanese Language Teaching in Multi-grade Classes  
—Improvement in Explanatory Text Instruction—

KAMITANI Junsaburo

はじめに

『鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要特別号3号』（平成19年3月23日発行）では文学教材の指導法を中心に考察した。本稿では、説明的文章教材の指導法を中心に、複式学級における国語科授業改善の案や事例を報告する。

- I 教科書教材文の書き換え・書き足し～中学校～
- II 教科書教材文の音読テキスト化～小学校～
- III 各学校の取組
- IV 資料～小学校国語「読むこと」教材分析表～

I 教科書教材文の書き換え・書き足し～中学校～

薩摩川内市立海陽中学校（1年：9名、2年：13名）

平成19年12月14日（金）5限

指導者 上谷順三郎（鹿児島大学）

1 単元：読む力をつけるために聞く・書く（飛び込み授業1時間）

教材：「未来をひらく微生物」（光村図書1年）

「モアイは語る—地球の未来—」（光村図書2年）

2 目標

(1) 第一学年

- ・文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。（CAア）
- （・話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方などに注意すること。（言語事項ア））
- ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意すること。（言語事項イ）
- ・事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。（言語事項ウ）

(2) 第二学年

- ・文脈の中における語句の効果的な使い方について理解し、自分の言葉の使い方に役立てること。(Cア)
- ・書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること。(Cイ)
- ・音声の働きや仕組みについて関心をもち、理解を深めること。(言語事項ア)
- ・抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること。(言語事項ウ)

### 3 評価規準

- (1) 聞き手にとってわかりやすいテキストをつくろうとしている。  
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) テキストを目と耳を通して比べて読んでいる。(読む能力)
- (3) 聞き手にとってわかりやすい語句を選んでいる。(言語についての知識・理解・技能)

### 4 学習指導の展開 (それぞれの学年を3グループに分ける。)

- (1) 学習のめあてと手順を確認する。(5分)
  - ①「聞いてわかりやすいように書き換えよう」を板書する。
  - ②学習内容の予告をする。(音読を聞く。書き換える。考察する。)
- (2) 教材文の内容を確認する。(5分)
  - ①それぞれの教材文の内容を紹介する。(担当教諭：伊藤)
- (3) テキストの音読を聞き、課題を見つける。(10分)
  - ①聞いてわかりにくいところはどんなところかを考えながら聞くように指示する。
  - ②上谷が今回のテキストを音読する。  
「未来をひらく微生物」(130頁5行～131頁15行)  
……具体例についての「情報」説明  
「モアイは語る」(131頁6行～132頁13行)  
……経緯についての「(論理)展開」説明
  - ③聞いてわかりにくいところはどんなところか、感じたこと考えたことを発表する。  
(「未来～」は2年生、「モアイ～」は1年生に。)
    - ・聞いただけではわかりにくい言葉→言い換える
    - ・難しい言葉→説明する
- (4) グループごとに担当テキストを加工する。(15分)
  - ・国語辞典を利用する。
  - ・各自案をもとにグループでワークシートに書き込む。
- (5) 加工されたテキストについて意見・感想の交換を行う。(10分)
  - ①1年、2年の順に、グループごとに音読する。
  - ②加工前と後について、聞いてみて、加工してみて、の意見・感想を発表する。
- (6) まとめ～次時にむけて (5分)

## 5 学習の実際

### (1) 「未来をひらく微生物」の本文と書き換え・書き足しの例

まず、微生物を利用して①環境問題を起こさない製品を作る例を見ていこう。

わたしたちの身の回りにはプラスチック製品があふれている。石油から作られたプラスチックは軽くて丈夫、そのうえ安いので、ペットボトルや文房具、電気製品などの素材②となっている。二〇〇〇年に、③日本で作られたプラスチックは約千五百万トン、④使用済みとなったプラスチックは約一千万トンに上る。そのうち五百万トンは⑤再利用され、残りは⑥焼却されたり埋め立てに使われたりした。

だが、プラスチックには⑦焼却するとダイオキシンなどの⑧有害な物質を出す危険性がある。

また、埋めても土の中で腐らず、いつまでも残ってしまう。落ち葉などと違って、人間が石油から新たに作り出したプラスチックは、微生物によって分解されないのである。

そこで、新しい種類のプラスチックが開発された。このプラスチックは、主に植物のでんぷんを⑨発酵させたものを原料に作られている。そのため、わたしたちが肉を食べ、胃や腸で消化するように、微生物が食べ物として分解できるのである。これを生分解性プラスチックとよび、たい肥に埋めておけば微生物によって水と二酸化炭素に分解されてしまう。

この製品が環境に負担をかけない理由は処理の面ばかりではない。微生物の分解によって空気中に放出された二酸化炭素は、やがて植物に吸収される。植物は、吸収した二酸化炭素を光合成によりでんぷんに変える。そこから再び、⑩生分解性プラスチックの原料を作ることができる。このように、自然の仕組みの中でうまく循環する製品の開発が、環境問題の根本的な解決につながっていく。

①環境によい

②に使われている

③日本製の

④使い終わった

⑤リサイクルされ

⑥焼き捨てられたり

⑦焼いてしまうと

⑧害のある

⑨微生物によって分解

⑩生で分解する性質がある

### (2) 「モアイは語る」の本文と書き換え・書き足しの例

①絶海の②孤島の③巨像を作ったのはだれか。なぞがなぞを呼び、宇宙人がやって来て作ったのではないかという説まで飛び出した。しかし、最近になって、それは④西方から⑤島伝いにやって来たポリネシア人であることが⑥判明した。墓の中の化石人骨の分析や、彼らが持ってきたヒョウタンなどの栽培作物の分析から明らかになったのだ。さらに、初期の遺跡から出土した⑦炭化物を測定した結果、ポリネシア人が最初にこの島にやって来たのは、五世紀ごろであることも明らかになった。

そのころ、人々はポリネシアから運んできたバナナや⑧タロイモを⑨栽培し、豊かな海の⑩資源を探って生活していた。そして、十一世紀ごろ突然巨大なモアイ⑪の製造が始まる。同じ時期に、遺跡の数も⑫急増しており、この島の人口が急激に⑬増加を始めたことがわかる。人口は百年ごとに二倍ずつ⑭増加し、十六世紀には一万五千から二万に達していたと推定されている。

大半のモアイは、島の東部にあるラノ・ララクとよばれる石切り場で作られた。このラノ・ララクには、モアイを作るのに⑮適した軟らかい凝灰石が⑯露出していたからである。人々は硬い溶岩や⑰黒曜石でできた石器を使って、モアイを削り出した。

削り出されたモアイは、海岸に運ばれ、アフとよばれる⑱台座の上に立てられた。このとき初めて、モアイに目の玉が入れられた。アフの上のモアイは、大抵の場合、陸の方に向けて立てられた。それは、モアイがそれぞれの⑲集落の⑳祖先神であり、守り神だったからだと考えられる。人々はいつもモアイの目に見守られながら生活していたのであろう。

- ① 陸地から遠く離れた海
- ② 海の中にぽつんとただ一つある島
- ③ 巨大な像
- ④ 西の方
- ⑤ 島を伝って
- ⑥ 明らかになった
- ⑦ 炭化した物
- ⑧ サトイモ科の植物
- ⑨ 育て
- ⑩ 自然からとれるもの
- ⑪ をつくり始める
- ⑫ 急に増えて
- ⑬ 増え
- ⑭ 増え
- ⑮ ちょうどよい
- ⑯ ころがっていた
- ⑰ 黒いガラスのような石
- ⑱ ものをすえておく台
- ⑲ 人家があつまっているところ
- ⑳ 住んでいる土地の

## II 教科書教材文の音読テキスト化～小学校～

以下は、平成19年度鹿児島県総合教育センター短期研修講座2日目〔11月15日(木)、メルヘン館〕における模擬授業の報告である。

### 1 単元 文章の構成を理解するために聞く（読むために聞く）：第2～3時

## 2 教材 「サクラソウとトラマルハナバチ」(光村図書5年上)

### 3 模擬授業

- (1) 大まかな内容をとらえて、学習の見通しを立てる。
  - ・音読10人
- (2) 「サクラソウとトラマルハナバチの物語」として読む。(②～⑥段落)
  - ・両者はどんな関係か、説明しなさい。
- (3) 「トラマルハナバチの物語」として読む。(⑦～⑨段落)
  - ・どんな生活か、説明しなさい。
- (4) 全体の構成を確かめる。
- (5) 「トラマルハナバチとサクラソウ」として読み直す。
- (6) まとめ

### 4 音読テキスト化の例

#### (1) 「サクラソウとトラマルハナバチの物語」

② (なぜタネができないかをさぐるために、まず、)

サクラソウの受粉の仕組みを考えてみましょう。受粉とは、おしべの花粉がめしべにわたされることです。受粉がうまく行われないと、植物はタネを実らせることができません。サクラソウの場合、この花粉を運ぶ大切な役わりを、トラマルハナバチという虫が果たしています。

③トラマルハナバチは、花のみつと花粉だけをえさとして生活するハチの一種です。花から花へと飛び回りながら、長い舌を花のおくに差しこんでみつをすいます。サクラソウをおとずれているトラマルハナバチを観察すると、口の周りなどに花粉が付いているのが分かります。みつをすうときに、おしべにふれて付いたものです。付いた花粉の一部は、このハチがほかのサクラソウからみつをすうときに、その花のめしべにわたされます。こうして、トラマルハナバチは、サクラソウからみつや花粉をえさとして集めるときに、結果として受粉の仲立ちをしているのです。

④サクラソウは、同じ仲間の花に確実に花粉をわたしてもらえるように、いくつかの工夫をしています。一つは、開花の時期です。サクラソウは、他の花より少し早くさきます。同じ時期にさく花が少なければ、ハチに、同じサクラソウの仲間に飛んでいってもらえるわりあいが高くなります。もう一つは、花の形です。サクラソウの花は、深い所にみつをためる形をしています。こうすると、そこにとどく長い舌をもつ虫だけをよび寄せることになります。サクラソウの花の形に合う長い舌をもつ虫は、次もサクラソウの花をさがしてみつをすうでしょう。

⑤トラマルハナバチは、そのようなサクラソウに合ったくらし方や体のつくりをしています。ハチのほうも、ある時期に特定の場所に行けば確実に花がさいているなら、その時期に合わせたくらし方のほうが便利です。また、長い舌があれば、その種の花を独りじめすることができます。

\*以下は、当日省略。

⑥こうして、サクラソウとトラマルハナバチは、おたがいにぴったりの、よい協力者となっているのです。この関係はそうかんたんにできたわけではありません。何百万年と

いう長い長い時間をかけて、それぞれが、おたがいの利益になるように体の形を変えたり、生活周期を調節したりして、強い結び付きを築いてきたのです。

(2) 「トラマルハナバチの物語」

⑦ (サクラソウの受粉には、トラマルハナバチが深くかかわっていることが分かりました。実は、サクラソウの花がさいても、タネが実らなくなった所では、このトラマルハナバチがすがたを消していました。)

トラマルハナバチは、なぜいなくなったのでしょうか。そのひみつは、トラマルハナバチの一年間の生活にかくされていました。(次は、それを考えてみましょう。)

⑧ トラマルハナバチの一家の歴史は、冬眠から目覚めたばかりの女王バチが、春先、巣作りにちょうどよいネズミの古巣をさがし当てたときから始まります。女王バチは、最初はたった一びきでたまごを産んで子育てをします。(サクラソウは、ちょうどそのころ花をさかせます。)女王バチは、サクラソウの花を次々におとずれ、その長い舌でみつをすい、えさを集めます。少しして、最初に産んだ子どもが一人前の働きバチに育つと、女王バチは巣の中にももって、たまごを産むことと幼虫を育てることに集中します。外にみつや花粉を集めに行くのは働きバチがします。その時期には、サクラソウの開花は終わっています。ですから、働きバチたちは初夏から秋にかけては、ほかのいろいろな花をおとずれてみつや花粉を集めることになります。(オドリコソウ・ノアザミ・アヤメ・ルイフネソウ・クローバーなどのほか、庭のツツジや畑のカボチャの花などからもえさを集め、幼虫たちを育て、家族をふやします。)そして、秋も深まるころ、新しい女王バチと、たくさんのおすバチが生まれ、一家はその終わりをむかえます。けっこんをすませた新しい女王バチだけが冬をこし、翌年の春にまた、自分たちの家族を育て始めるのです。

⑨ このように、トラマルハナバチは、春から秋まで、いろいろな植物の花がとぎれることなくさき続ける場所でない、家族を養い、子孫を残すことができません。また、使い古しの巣あなを残してくれるネズミがいることも必要です。

(サクラソウだけが、人間に世話されて花をさかせても、その周辺が牧場や畑やゴルフ場に変わり、他の花々がなくなって、ネズミもすめないような所では、トラマルハナバチは生きていけないのです。)

### Ⅲ 各学校の取組

#### 1 奄美市立緑が丘小学校 [平成 19 年 10 月 9 日 (火)]

(1) 指導者：福元真太郎教諭 (3 年 2 名、4 年 5 名)

(2) 単元

3 年：大事なことをたしかめよう

(光村図書 3 下「すがたをかえる大豆・食べ物はかせになろう」)

4 年：材料の選び方を考えよう

(光村図書 4 下「アップとルーズで伝える・四年三組から発信します」)

(3) 授業の視点

- ① 複式学級における説明的文章の指導のあり方
- ② 少人数学級または複式学級において能力差が大きい場合の個別指導のあり方

2 日置市立扇尾小学校 [平成 19 年 10 月 30 日 (火)]

(1) 指導者：中熊豊仁教諭 (5 年 3 名、6 年 2 名)

(2) 単元

5 年：目的に応じた伝え方を考えよう

(光村図書 5 下「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」)

6 年：筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

(光村図書 6 下と小 6：「平和のとりでを築く」)

(3) 授業の視点

- ① 音読時間の設定
- ② ワークシートの活用
- ③ 重要語句への着目
- ④ ヒントカードの活用
- ⑤ 方法面での課題の設定とまとめ
- ⑥ ガイド学習のあり方
- ⑦ 設営資料の工夫

3 奄美市立宇宿小学校 [平成 19 年 11 月 9 日 (金)]

(1) 指導者：國生利香教諭 (3 年 3 名、4 年 8 名)

(2) 単元

3 年：場面の様子をそうぞうしながら読もう

(光村図書 3 下「ちいちゃんのかげおくり」)

4 年：場面をくらべて読もう

(光村図書 4 下「一つの花」)

(3) 授業の視点

- ① 重点的な指導を行うための工夫 (『複式国語科年間指導計画』)
- ② 間接指導時において主体的に読み取るための工夫
- ③ 「読むこと」の「学び方」を育てる指導の手だて

4 喜界町立上嘉鉄小学校校内研修

(1) 平成 19 年 7 月 9 日 (月)：星原貴光教諭 (3 年 9 名)

単元：お届けします！おすすめの本～はじめよう「本の宅急便」(「本は友だち」)

(2) 平成 19 年 11 月 26 日 (月)：住友智光教諭 (6 年 4 名)

単元：筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう(「平和のとりでを築く」)

(3) 平成 20 年 1 月 28 日 (月)：星原貴光教諭 (3 年 9 名)

単元：漢字のおもしろさ大発見！(「漢字と友だち」)

## IV 資料～小学校国語「読むこと」教材分析表～

	文学的文章			説明的文章	
	ジャンル	タイトル(作者)	重点(タイトル、視点、設定、表現)	タイトル(筆者)	重点(情報、論理、筆者・テーマ)
1上	1 詩	はる(中川李枝子)	語彙		
	2 詩	ともだち(まど・みちお)	句読点		
	3 おはなし(物語)	はなのみち(岡信子)	結果／起承転結(三人称客観)		
	4 詩	あいうえおであそぼう(中川ひろたか)	韻		
	5			いろいろなくちばし(村田浩一)	写真と語彙／鳥
	6 おはなし(昔話・民話)	おむすびころりん(羽曾部忠)	反復語／反復性(三人称全知)		
	7 おはなし(民話)	大きなかぶ(西郷竹彦)	対象／累積性／「おむすびころりん」／三人称客観		
1下	8 おはなし(物語)	くじらぐも(中川李枝子)	相手／設定／三人称客観／「ともだち」		
	9 おはなし(物語)	ずうっと、ずっと、大すきだよ(ハンス＝ウィルヘルム)	キーワード／一人称		
	10 詩	あめふりくまのこ(鶴見正夫)	「はなのみち」、「くまさん」(まど・みちお)		
	11			どうぶつの赤ちゃん(増井光子)	様子・状態と変化、比較／動物(陸)
	12 おはなし(物語)	たぬきの糸車(岸なみ)	三人称限定(おかみさん)／「大きなかぶ」		
2上	13 おはなし(物語)	ふきのとう(工藤直子)	三人称客観		
	14			たんぼぼのちえ(植村利夫)	順序／そうして、けれども、なぜ、でも、このように／植物
	15 物語	スイミー(レオ＝レオニ)	中心人物／三人称限定		
	16 詩	おおきなあれ(阪田寛夫)	オノマトペ		
	17			サンゴの海の生きものたち(本川達雄)	「スイミー」／関係／動物(海)
	18 物語	黄色いバケツ(森山京)	人物関係／三人称全知		
2下	19 物語	お手紙(アーノルド＝ローベル)	対話／三人称全知／手紙		
	20			一本の木(岩崎清)	植物／順序、観察
	21 詩	いるか(谷川俊太郎)	(動物)反復		
	22 物語	スーホの白い馬(大塚勇三)	モンゴル、馬／語り／三人称限定(スーホ、とのさま)		



Ⅳ 資料～小学校国語「読むこと」教材分析表～

		文学的文章			説明的文章	
		ジャンル	タイトル(作者)	重点(タイトル、視点、設定、表現)	タイトル(筆者)	重点(情報、論理、筆者・テーマ)
3上	23	物語	きつつきの商売(林原玉枝)	動物・植物(森)／三人称客観		
	24				ありの行列(大滝哲也)	昆虫／実験、観察
	25	詩	わたしと小鳥とすずと(金子みすゞ)	わたし(小鳥)／童謡		
	26	物語	三年とうげ(李錦玉)	三人称全知／(民話)		
	27	詩	キリン(まど・みちお)	動物(陸)		
	28	民話	聞き耳ずきん(上笙一郎)	「三年とうげ」／三人称限定(わかもの、長者ど)		
3下	29	物語	ちいちゃんのかげおくり(あまんきみこ)	中心人物／三人称限定(ちいちゃん)／「一つの花」		
	30				すがたをかえる大豆(国分牧衛)	食物／食べ方
	31	物語	モチモチの木(斎藤隆介)	三人称限定(豆太)／語り		
4上	32	物語	三つのお願い(ルシーラ＝クリフトン)	一人称(回想)		
	33				「かむ」ことのカ(金田冽)	そしゃく／「すがたをかえる大豆」
	34	詩	春のうた(草野心平)	かえる		
	35	物語	白いぼうし(あまんきみこ)	三人称限定(松井さん)／ファンタジー／シリーズ		
	36	詩	ぼく(木村信子)	ぼく／「わたしと小鳥とすずと」		
	37				手と心で読む(大島健甫)	点字／「落葉松」
	38	物語	いろはにほへと(今江祥智)	三人称全知／反復・累積		
4下	39	物語	一つの花(今西祐行)	[三人称客観(ゆみ子)]／「ちいちゃんのかげおくり」		
	40				アップルとルーズで伝える(中谷日出)	メディア・リテラシー
	41	物語	ごんぎつね(新美南吉)	一人称・三人称限定(ごん・兵十)		

## IV 資料～小学校国語「読むこと」教材分析表～

	文学的文章			説明的文章			
	ジャンル	タイトル(作者)	重点(タイトル、視点、設定、表現)	タイトル(筆者)	重点(情報、論理、筆者・テーマ)		
5上	42	物語	新しい友達(石井睦美)	一人称/人間関係			
	43			サクラソウとトラマルハナバチ(鷺谷いづみ)	植物・昆虫/因果関係/「生き物がつながりのなかに」		
	44	詩	晴天(三木露風)	自然(山)			
	45	詩	海雀(北原白秋)	自然(海)/「落葉松」			
	46	詩	雪(三好達治)	自然(雪)			
	47				千年の釘にいでむ(内藤誠吾)	木造建築	
	48	詩	未確認飛行物体(入沢康夫)	タイトル/想像力			
	49				ごみ問題ってなあに(嘉田由紀子)	生活意識と環境問題	
5下	50	物語	わらぐつの中の神様(杉みき子)	三人称限定(マサエ・おみつさん)/額縁構造			
	51				ニュース番組作りの現場から(清水建宇)	メディア・リテラシー	
	52	詩	ねぎぼうず(みずかみかずよ)	想像力(比喩)			
	53	詩	ケムシ。(まど・みちお)	想像力(擬人法)			
	54	詩	耳(ジャン＝コクトー)	想像力(比喩)			
	55	詩	蝶(ジュール＝ルナール)	想像力(比喩)			
	56	物語	大造じいさんとガン(棕鳩十)	一人称・三人称限定(大造じいさん)/語り			
	57	長詩	月夜のみみずく(ジェイン＝ヨーレン)	設定(とうさん・わたし、冬の夜ふけ、森)			
6上	58	物語(小説)	カレーライス(重松清)	一人称(ぼく)/お父さん・お母さん			
	59				生き物はつながりの中に(中村桂子)	ロボットのイヌと本物のイヌ/対比	
	60	詩(短歌・俳句)	短歌6首、俳句6句	(一人称)			
	61	紀行文	森へ(星野道夫)	ものの見方、感じ方、考え方/情景描写			
	62	詩	船(山之口獺)	想像力(擬人法)			
	63	詩	りんご(山村暮鳥)	想像力(取り合わせ)			
	64					多くの人が使えるように(古瀬敏)	ユニバーサル・デザイン
	65	狂言	柿山伏	古典・戯曲/設定・表現～読者			
66					柿山伏について(山本東次郎)	芸能と人間	
6下	67	物語(童話)	やまなし(宮沢賢治)	一人称・三人称客観/幻燈/表現			
	68				イーハトーブの夢(畑山博)	作家の伝記的事実と作品	
	69					平和のとりでを築く(大牟田稔)	原爆ドームと世界遺産
	70					言葉の橋(宮地裕)	詩の鑑賞と人生
	71	物語(小説)	海の命(立松和平)	三人称限定(太一)/シリーズ/生活と仕事			
	72					今、君たちに伝えたいこと(小澤征爾)	談話・聞き書き/仕事と人生
	73	詩	生きる(谷川俊太郎)	タイトル/読者			